

優秀賞

高校生部門 〈言葉の力〉

鹿児島県立武岡台高等学校 1年

織田 淳誠

達成感

第7回 言の葉大賞®

「死にたい」

これは私の中学校三年生の時のログセだ。当時の私は、家族関係や友人関係、学校の成績、部活動のキャプテンなど全てのことが本当にうまくいかなかった。人は何もできなくなる、と生きる意味を失くす。当時の私も何もできなくなった自分の将来を考えることができず、絶望したことを今でも覚えている。生きていく意味を見つけれない中、ある日母がこんな言葉をかけてくれた。

「できるだけできればいいが」

全ての事に無関心で人の話も聞き流していた自分だったが、この言葉だけは自然と耳に入ってきた。そんな考えは頭にはなかったからだ。

あの頃の自分は完璧主義者だった。いやそれ以上のものだったかもしれない。全ての事が成功しないと気が済まず、失敗が嫌いだ。だから、「できるだけ」って言うとか何か自分に都合の良いことを言って逃げている気がしたのだ。でも、母の言葉で全てが変わった。自分ができるだけの力で精一杯して失敗しても、自然と落ち込まなくなって立ち直ることができていたのだ。逆に、

「自分はやれるだけやった」

という達成感を得ることができた。そしていつのまにか「死ぬ」という考えはなくなっていた。

こんな経験をした自分だから、今言えることがある。人間は何かしら頑張っていけるものが必要だということだ。人間は何かに向かって努力している時生きているという実感が得られる。たとえその努力が実らなくても達成感は得られ、生きていけるのだ。何のために頑張るのかは人次第だ。しかしそれが何であっても、そのために頑張ることができれば生きぬく力になる。これからも母の言葉を胸に自分の生きる力である達成感を自分自身でつくっていききたい。